

8-4-8 ダム・発電専門委員会

1. 主な活動の記録

(1) 委員会の開催

専門委員会開催回数：8回

地質分科会開催回数：9回

(2) 協会活動への協力・支援

「照査特別WG」に参画し、ダム分野におけるエラー事例の収集と要因分析に基づく品質セミナーのテキスト作成に協力した。

また、当協会が(一財)全国建設研修センターと共催する「ダム総合技術研修」への講師2名派遣、対応等を実施した。

「CIM導入ガイドライン(案)第4編 ダム編」の作成に対応した。

(3) 若手技術者を中心とした討論会・講演会

平成18年度より若手技術者による自主的な企画に基づく勉強会を継続して開催している。

平成30年度は5名の若手技術者による準備WGを4回開催したうえで、11月8日に「ダムの調査・計画・設計に関する新たな試み」をメインテーマに業務事例発表会を開催した。また国土技術政策総合研究所 河川研究部 大規模河川構造物研究室 金銅将史室長から「ダムの安全とリスク認識」に関して講演をいただいた。参加者は総勢40名であった。業務事例として、ダムの本体設計・施工計画関連2例、貯水池環境関連1例、維持管理関連2例の注目度の高い業務トピックスが紹介され、講師を交えた率直な意見交換を行った。

(4) ダム工事総括管理技術者会との意見交換会

平成13年度からダム工事総括管理技術者会(CMED会)からの呼びかけに応じ、年1回意見交換を行っている。平成30年度は、11月30日に開催し、ダム・発電専門委員会からは「エラーの技術的分析と改善策」、「施工時の設計変更の現状と課題」の二つのテーマについて発表を行った。CMED会からは「ダム現場における問題点」に関する発表があった。意見交換会には、専門委員に加え、各社設計実務担当者も参加し、

参加者は15名であった。CMED会の常任幹事および(一財)日本ダム協会から総勢15名が参画し、意見交換を行った。

(5) ダム現場見学会の開催

年1回ダム地質および設計技術者を対象に、建設中のダム現場の地質を中心とした見学会を行っている。平成30年度は、8月22日～23日に建設中の内ヶ谷ダム(岐阜県：重力式コンクリートダム)、御母衣ダム・御母衣発電所(電源開発)、小牧ダム(関西電力)を見学した。参加者は27名であった。

(6) 地質技術報告会の開催

年1回、主に地質技術者を対象に技術報告会を行っている。平成30年度は、8月25日に「付加体の土地質的課題」をテーマに掲げ、国立研究開発法人 海洋開発研究機構 山本 由弦様による招待講演と、4編の技術報告を実施した。参加者は208名で過去最多となった。

また、(一財)ダム技術センター 脇坂 安彦様から「付加体が有する課題：地質体の不均質・不規則による地質リスクと安全率設計法」として話題提供がなされ総合的な討論を行った。

(7) ダムなんでも相談室への参画

「丸の内キッズジャンボリー」(8月14日～8月16日)の期間中、啓発活動としてダム工学会とダム工事総括管理技術者会共催による「ダムなんでも相談室」にダム博士を派遣し、運営の協力を行った。ブース来訪者は、会期3日間で約600名であった。

(8) ダム設計に関する技術勉強会の開催

平成30年度は、「The dam concrete 管理編」をテーマとした技術勉強会を10月11日に開催した。講師は、(一財)ダム技術センターの川崎秀明首席研究員で、ダム関連の維持管理の本質を分かりやすく解説いただき、参加者は32名であった。

2. 次年度の活動について

今年度の活動を継続実施する。

(ダム・発電専門委員会委員長 井根 健)